



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-09

(2025. 4. 15)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

上席主任研究員 刀禰 和之

研究員 森川 友理

03-5202-7671

s1000790@facetoface.ne.jp

信用金庫のATM設置の見直し

2024
プランニング

ポイント

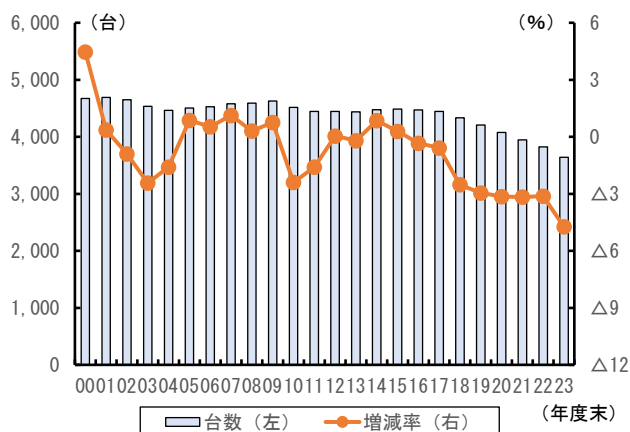
- わが国では急速なキャッシュレス化とコンビニATMの社会インフラ化が進んでおり、信用金庫のATM設置の相対的な魅力低下が懸念される。
- 特に店外ATMについては設置台数の削減が顕著で、更新のタイミングを睨みつつ順次撤退中との研修受講金庫が複数あった。
- 稼働状況などを勘案し店内ATMの1台化に取り組む信用金庫がある一方で、顧客利便性確保のため複数台設置を続ける事例もみられた。
- 研修受講金庫の取組事例をみると、コンビニATMの店内設置や店外ATMの共同設置に取り組む動きが一部であった。

(注) 当研究所は、信用金庫の持続可能なビジネスモデル等について信用金庫役職員と検討する「経営戦略プランニング研修(2024年度)」を実施した。本稿は、当研修の意見交換等で得た情報をもとに作成している。

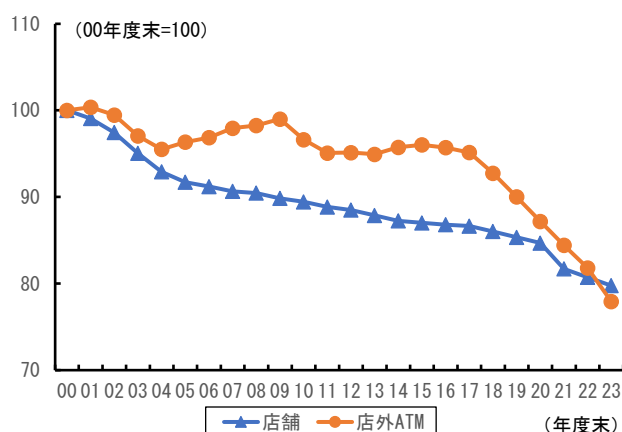
1. 店外ATMの設置台数の減少

急速なキャッシュレス化とネット取引の普及、更にはコンビニATMの社会インフラ化などにより、信用金庫がATMを設置し続けるメリットは低下方向にある。なかでも店外ATMは2023年度末に前期比4.7%減少の3,643台となり、8年連続で前年度末を下回った(図表1、2)。これまでは店舗統廃合後も顧客利便性に配慮し店外ATMを設置し続ける信用金庫が大半だったが、前述のとおり顧客ニーズの低下がみられるため、近年は廃止に舵を切る信用金庫が増えている。そのため店外ATMの減少方向は当面続くと予想される。

(図表1) 店外ATMの設置台数の推移



(図表2) 店舗数と店外ATM設置台数の変化(指数)



(備考) 1. 図表2の店舗数は21年度以降、店舗内店舗数を除いた。

2. 図表1・2ともに信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 店内ATMの設置台数の1台化

研修受講金庫へのヒアリングでは、店内ATMの複数台設置の方針を改め、稼働状況によって1台化する動きが活発であった。一方で顧客利便性の維持や店頭の混雑緩和を目的に複数台設置を続けるケースもあり、信用金庫によって対応方針が分かれた。なお一部で高機能ATMへの更新を進める動きもみられた。

3. 取組時の留意点

取組時の検討課題は、①ターゲット顧客の確認、②中長期の視点による投資計画、③代替チャネルの整備などとなる。10年後の社会環境を予想すると、ATMの必要性低下は避けられないと考える。そこで今後のシステム投資を検討するうえで、これまで以上に計画的な買替えや再配置の実施が求められる。

4. 研修受講金庫のコメント

当研究所が主催する「経営戦略プランニング研修（2024年度）」などの意見交換時に聴取した研修受講金庫の主なコメントは図表3のとおりである¹。

（図表3）研修受講金庫のコメント

（コンビニATM提携）

- 当金庫は〇〇店のATM1台をセブン銀行ATMにした。当地は外国人観光客の来店が多く、これまでは職員が身振り手振りで、近隣のコンビニ（ATM）を案内していたが、今はセブン銀行ATMを指差すだけで済むようになった。
- 当金庫の本店にもインバウンドの外国人が多く来店し接客に苦慮している。いっそセブン銀行ATMを設置して誘導した方がテラーの負荷も減ると考えている。
- 当金庫は自前の店外ATM網を見直し、セブン銀行との共同ATMに切り替えている。メリット・デメリットがあるものの、現状はプラスの方が大きいとの判断である。
- 当金庫はローソン銀行とATMの入出金手数料の無料化で提携したことを契機に、近隣にローソンがある支店のATM設置台数の1台化に取り組んでいる。

（店内ATMの設置見直し）

- 法人特化型の空中店舗についてはATMを設置しない。
- ATMの機能の絞り込みは考えていない。複数台設置については、利用件数のモニタリングをしており、利用状況が低迷しているATMは撤去していく。
- 店内ATMを2台以上設置の場合、状況を見て1台の機能を絞り込む（単機能化など）。

（備考）過去レポートの再掲あり

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断でお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

¹ 信用金庫のコメント等は研修受講者の個人的な意見・感想を含むものであり、受講金庫の正式なコメントではない。そのため事例の記載にあたっては信用金庫名が特定できないように修正してある（個別信用金庫名や詳細資料の提供依頼にはお応えしていません）。

経営戦略プランニング研修（2024 年度）

関連レポートのご案内

企画

このほかにも、
信用金庫経営に関する様々な情報を発信していますので、
当金庫 HP からご覧ください！

当研究所 HP トップ : <https://www.scbri.jp/>

関連レポートは
こちら



No.	発行日	タイトル
2024-115	2024/12/27	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-11） —営業店の標準化状況「事前課題の集計結果」—
2024-125	2025/1/14	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-16） —営業店事務の集中化状況—
2024-126	2025/1/14	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-17） —各種システムの導入状況—
2024-133	2025/1/20	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-21） —相続手続きの集中化策—
2024-134	2025/1/20	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-22） —庫内会議改革への取組み—
2024-155	2025/2/28	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-27） —規模縮小の容認への考え方—
2024-178	2025/3/25	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-37） —営業店適正人員の算出手法—
2024-179	2025/3/25	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-38） —少人数店舗運営に向けた工夫等—
2024-182	2025/3/26	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-39） —本部組織改革への取組み—
2024-183	2025/3/26	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-40） —本部組織のマルチタスク化への取組み—
2024-184	2025/3/26	信用金庫の新しいビジネスモデル策定（2024-41） —本部業務の可視化（定量化）策—
2025-7	2025/4/14	信用金庫の本部機能の移転動向